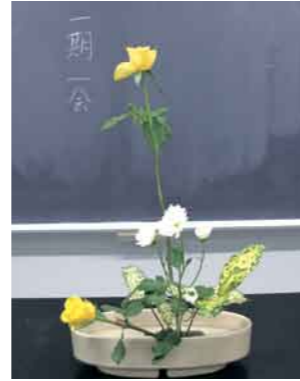


## 中学校・日本文化実習での華道「生活を楽しむ いけばな」

作成者：公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事 新藤華浩

- 対象者・人数：中学校1年生 約50名
- 所要時間：1回60分 ※1週間に1回
- 指導者・アシスタント人数：
  - 華道指導者1名、アシスタント1~2名
  - 華道部顧問 教師1名
- 協力：切花生産者
- 実施場所：理科室（学校教室）

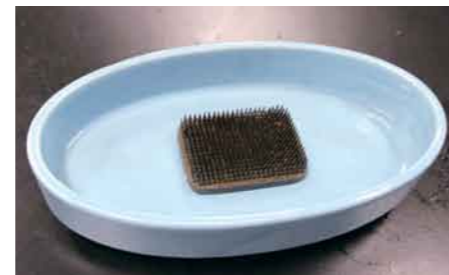


### ■ 資材

- ・花器、水盤など
- ・剣山
- ・はさみ



左から「わらび手鋏」「古流はさみ」「クラフトバサミ」



花器と剣山

### ■ 花材

- ・バラ 2本
- ・スプレーマム 1本
- ・ドラセナ 1本

※できるだけ季節感を感じることでできる花を使用します。



### <季節の花>

#### 春

- ・桃、桜、ツツジ
- ・菜の花
- ・アイリス
- ・チューリップ
- ・スイートピー

※桃・桜・ツツジなどの枝物は、枝が硬いので予め切り分けておくとよい。

#### 夏

- ・シャクヤク
- ・ショウブ
- ・ダリア
- ・ヒマワリ
- ・ユリ

※アジサイ、テッセンなども夏を代表する花。水揚げが難しいので注意が必要。

#### 秋

- ・スプレーギク
- ・ナデシコ
- ・リンドウ
- ・コスモス
- ・ケイトウ

※ススキの穂も使用できる。秋の七草や十五夜の話と合わせて説明する。

#### 冬

- ・日本スイセン
- ・ポピー
- ・ツバキ
- ・梅
- ・松

※冬は、季節の行事クリスマス、お正月に使うモミヤ松、リンゴや千両などをそろえると良い。

### 【指導内容と目的】

- ・生花に触れることで、花、草、木への愛情を育てていくことを主たる目的とする。
- ・花き生産者と華道講師の花への思いや生産についての話を聞くことで、生花の流通や生産についても興味や関心を持ってもらう。
- ・いけばなを体験することで、日本の伝統文化への関心を高める。
- ・花き生産者から季節に出荷される花材の話や切り出した植物の管理などの生産者の方々が工夫や努力をされていることを聞き学ぶ。  
(桃や桜などの枝物は、つぼみの状態で切り出し出荷までハウス内で管理をしている)
- ・いけばなをいけ、飾る上での礼儀作法、和室での所作を体験し学ぶ。
- ・人と花、あるいは人と人が出会う縁をあわらす「一期一会」について説明し学友への友情、教師への敬愛の念を持たせるきっかけとする。
- ・植物にまつわる有職故実や年中行事、五節句について知識を深める。

〈五節句とは（伝統的な年中行事を行う季節の節目となる日）〉

- ・人日（じんじつ）の節句 1月7日 七草の節句
- ・上巳（じょうし/じょうみ）の節句 3月3日 桃の節句
- ・端午（たんご）の節句 5月5日 菖蒲の節句
- ・七夕（しちせき/たなばた）の節句 7月7日
- ・重陽（ちょうよう）の節句 9月9日 菊の節句

### 【対象者への配慮】

- ・「いけばな」の作品は、持ち帰り、家のテーブルや部屋に飾れる大きさとする。
- ・持ち帰りのことを考え、手さげ袋などを用意する。
- ・水場が教室内にあるような理科室などが望ましい。なるべく水場の近い教室で実施するとよい。
- ・道具の安全面：剣山、ハサミなどで怪我のないように正しい使い方を説明する。
- ・花材の安全面：トゲのある物を使用する場合は、生徒に注意喚起をする。  
植物の切り口に樹液が付いている場合があるので衣服を汚さないように気を付ける。
- ・作業中の安全面：枝物をハサミで切るときには、指をはさまないように気を付ける。
- ・授業の時間内で作業が終わるように時間配分に気を付ける。
- ・生徒15人に1人程度の講師がつくようにしたい。

## 1. 事前の準備

### ■ 主催者との確認事項

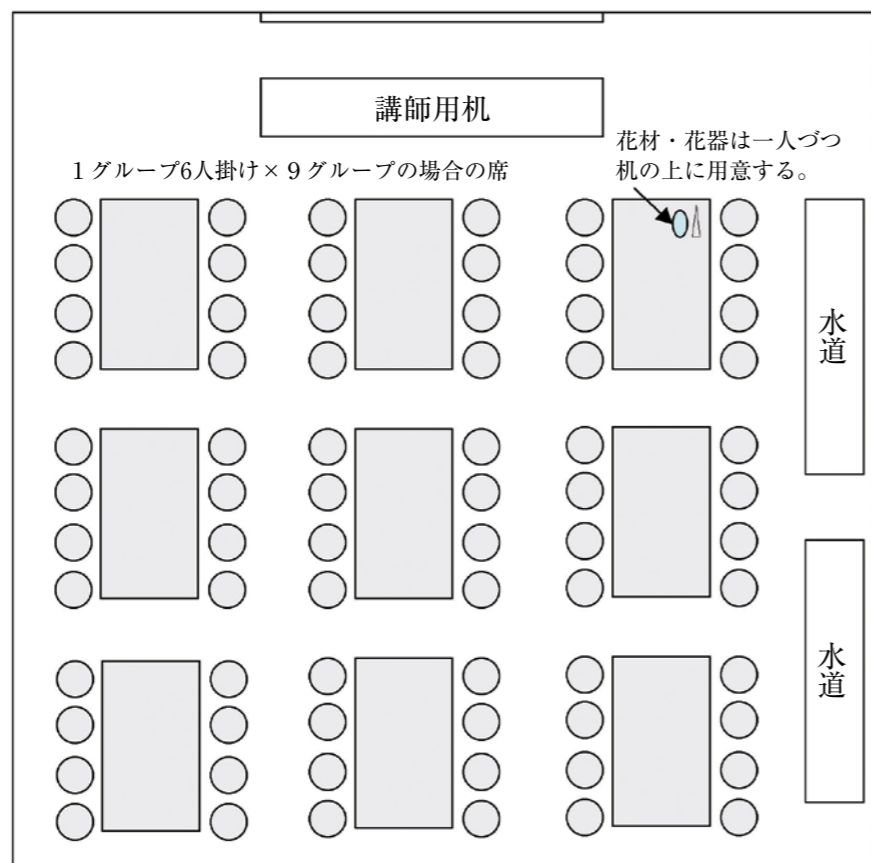
- ・花き生産者が地域の方の場合には、生産している花材を見本として持参頂けるように依頼すると良い。年間を通じて生産をしている花材の写真なども合わせて持参いただくとよい。

### ■ 使用する花材の準備

- ・花材の準備（使用する花材、調達方法）
- ・枝で構造を、花で彩色をするため、枝などの切りにくい材料を使用することもあるが、中学生の場合は、安全に配慮し「切りやすい」花材を選ぶと良い。  
生花店に花材を依頼するときは、「中学生が初めて使用する花材」であることを伝え、切りやすい花材を配慮してもらう。

### ■ 当日の準備

- ・開始1時間ほど前に、講師・アシスタント集合  
資材搬入後にミーティングを行い手順等の最終確認を行う。
- ・テーブルに一人分ずつ花材を配る。



## 2. 当日の流れ

- ・時間（所要時間）13：40～14：40（授業の1時限分）

### ■ 具体的な手順

#### ① 講師・アシスタント挨拶・自己紹介

- ・講師やアシスタントの仕事の内容など通常行っている活動などについて紹介する。

#### ・切り花生産者の話

生産者の方が育てている植物の花や普段使っている道具などの話や植物を育てるうえでのやりがいや大変なことなどを聞き植物がどのように作られているのかを知る。



榎原さん愛用の使い込まれたハサミやカマ、ハサミなど



埼玉県の花き生産者 榎原さん

- ・いけばなの先生と生産者の方から花材についての説明を聞く。
- ・中学生がわかりやすいように、いけばなの先生から生産者の方へ質問形式で進行する。



#### ② 花材、生け方の説明

- ・ホワイトボードや黒板を使って図解をするとよい。



<花材>

・バラ バラ科

バラは出来る限り早く水にいけ、長時間経った場合は水切りを行い、2~3時間水揚げをする  
とよい。花器はきれいに洗いバラの葉は水につかる部分は取り除き、切り口は鋭利な刃物で斜  
めに切って活けると長く楽しめる。

・スプレーマム キク科

スプレー状に枝分かれして咲いている菊ということでスプレー菊（スプレーマム）と呼ばれ  
ている。元は中国原産の菊を西洋で品種改良したもの。

・ドラセナゴッドセフィアナ リュウゼツラン科

新しい葉は黄色の斑、古くなると白い斑に変わり、とても綺麗な葉をしている。

<生け方>

(ア) 花器を用意し、剣山を好きな場所に  
セットして、水を2cmぐらい張る。



<大きな花器を用意出来ない場合>

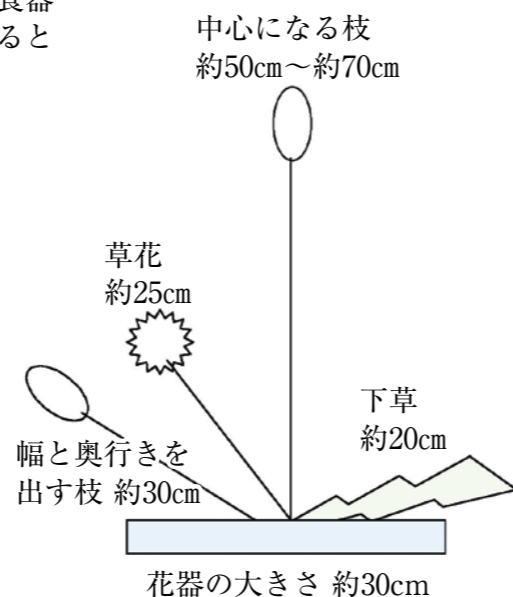


カップや茶碗に小型の剣山で  
もいけることができる。

剣山がない場合は、吸水性ス  
ポンジを使ってもよい。食器  
に吸水性スポンジを入れると  
持ち帰りも便利。

(イ) 生け方

花器・ハサミなどの備品の準備を確認し、  
花材の説明や花材の図を黒板に描き生け方の  
手順を説明する。説明しながら1本ずつ挿して  
いく。生徒が挿し終わったら次の枝を挿す。  
アシスタントは、各テーブルを周り生徒の  
様子を見て声かけをして挿し方などを  
アドバイスする。



(ウ) 花の切り方

- ・花材は、生徒の見えるように上に持ち上げて切る。
- ・水きりの説明をする。
- ・バラなどは、葉を適度に切る。
- ・硬い枝はハサミの奥で切る。
- ・切り口をV字に切れ込みを入れると剣山に挿しやすい。
- ・やわらかい茎は横にまっすぐ切る。
- ・見本は、生徒に向けてつくる。



③ 各自作品を作成

- ・中心になる枝は、花器の大きさが約30センチ  
の場合は、50センチ~約70センチの長さにする。
- ・生徒の進行状況を見ながら進める。
- ・後方の生徒にも見本が見えるように高い位置  
に見本を置く。



④ 講師・アシスタントに確認をしてもらう

- できたらアンケート（感想）を書く
- ・出来上がったら講師が確認（手直し）をする。
- ・終わったら、作品のスケッチをする。
- ・お互いの作品を見せ合い良い点などを発表する。  
他の生徒の作品を見合うことは良い刺激になる。
- ・アンケートに楽しかった点、難しかった点を  
記し生徒自らの考えをまとめる。



⑤ 後片付け・最後に講師からまとめ

- ・いけばなは、準備・活ける・片づけで一回の  
お稽古であることを伝える。
- ・「一期一会」であることその説明、「道具」  
についても解説する。
- ・和室ならば、床の間への飾り方、畳の縁は踏  
んではいけないことなど基本的な所作を見せ  
解説する。



## ■ 指導ポイント

- ・大きな花器や剣山がなくても、食器などの茶碗やカップに小さい剣山を入れて使用できる。
- ・直径7cmの丸剣山ならば40cmぐらいの枝を挿すことができる。道具が揃わない場合は、紙コップに吸水性スポンジを入れるなどして代用する。
- ・いけばなの歴史についても解説するとよい。  
(女性だけの文化ではなく、昔は男性がたしなんでいた時代があることを伝える。)
- ・植物、道具を大切に扱い、命あるものを扱うことへの感謝の気持ちを持ち、粗末に扱わないことを指導する。
- ・時間配分は、授業時間でおさまるように配慮する。  
講義(対話)20分、実技20分、まとめ10分。
- ・家で管理方法を説明し、水かえ、切り戻しの手法を解説し長く楽しめるようにする。

<その他>

## ■ いけばなの様式

## 立花(りっか)

室町、安土桃山時代にかけて書院造の床の間などに花が飾られるようになり、「立花(りっか)」として成立した。

## 生花(せいか・しょうか)

江戸時代中頃になると、数寄屋造りの建築様式が豪商を中心に取り入れられた。江戸末期には、庶民の小さな床の間にも「生花」が一般の人々にも生けられるようになった。基本的に3つの役枝から構成されていて、この3つの役枝にはそれぞれの流派によって名称が決められている。3つの枝が不等辺三角形を形作っているのが特徴である。

## 盛花(もりばな)

明治時代に西洋文明の影響を受け、洋花の輸入や建築様式の変化もあり「盛花(もりばな)」が女性を中心に広がった。水盤や平かごなどの、丈の低い口の広い花器に盛るようにして生ける生け方で、洋風なテーブルの上にも置くことができるいけばなとして流行した。

## 投げ入れ

住宅の応接間などが茶の湯の花や文人花から、剣山を使わず挿す生け方で、花器に自然のままの風姿を保つように生ける「投げ入れ」が生活に取り入れられた。

## 現代いけばな

昭和初期から、商業施設の広い空間やマンションや洋風の住宅で生活する日本人の暮らしに合わせ、色々な素材が取り入れられ「現代いけばな」が隆盛をみせる。

いけばなは、その時代の建築様式や生活様式の変化とともに姿を変えてきている。

## ■ 所要時間や配分

開始60分前

集合・学校や主催者への挨拶・打合せ  
使用する花材や資材の確認

0分(10分)

①生徒集合：挨拶(講師・アシスタント自己紹介)

## ■ 切花生産者の方の話

- ・どのような花を育てているか
- ・作業や道具の話
- ・花を育てる上で大変なこと

10分(15分)

②花材・生け方の説明

25分(20分)

③いけばな作品作成

45分(10分)

④講師・アシスタントは出来上がった生徒の作品を見て回る。  
終わった生徒からアンケート(感想)を書く

55分(5分)

⑤後片付け・最後に講師からまとめ

60分

⑥終了

30分(30分)

⑦最終的な片付け、スタッフ・教師・主催者等ミーティング